筑波大学体育科学系紀要　Bull. Health & Sports Sciences, Univ. of Tsukuba　11:353—360, 1988.

ラグビーの教育・指導用フィルム及びビデオの研究

——イングランドにおける歴史的変遷について——

川　島　淳　夫・山　本　　巧*・江　田　昌　佑

A Study of Teaching/Coaching Films and Videos in Rugby Football

——about The Historical Change in England——

Atsuo KAWASHIMA, Takumi YAMAMOTO* and Masasuke EDA

This study intended to clarify the historical change of teaching / coaching films and videos of Rugby in England. For this purpose, 12 titles of films and videos and articles concerned them were collected.

The results were as follows.

1) The history of teaching / coaching films and videos in England starts in 1955.
2) From 1955 until 1987, 21 titles of teaching / coaching films and videos have been produced.
3) The film age and the video age are diveded around 1980.
4) The Rugby Football Union has been taking the initiative to puroduce films and vedeos.
5) The structure of content varies from films / videos to films / videos. The variety of it is incerasing recently with the variety of the theme.

This sutdy was financially supported by The University of Tsukuba Project Reserch.

Key words:　Rugby, Coaching, Film, Video, England

I．目　　的

視聴覚教材として8 mmフィルム・16mmフィルムは以前よりいろいろな分野でひろく活用されている。また最近ではビデオの普及が著しく，多くの研究・教育分野で活用されている。ラグビーにおいてもこれは例外ではなく，日本に留まらず世界各国において指導・教育用フィルム及びビデオが制作され，活用されている。[注1)]

そこで本研究は，過去に制作されたラグビーにおける教育・指導用フィルム及びビデオを歴史的にたどり，その内容と特徴を明らかにすることを目的とした。

＊筑波大学大学院修士課程体育研究科

研究を進めるに当たって，内外のフィルム及びビデオ，それに関連した資料を収集したが，その中で特に制作が盛んで，資料の収集状況の良かったイングランドを研究対象とした。ただし未見のフィルム及びビデオが多数あることから，ここに本研究の限界があることを予め述べておく。

II．過去の研究の概要

ラグビーを対象とした過去の研究において，歴史的変遷を扱ったものには，Royds[5]，Gadney[1]のルールの変遷に関するもの，Roydsの研究をもとにした中村[4]の競技場の変遷に関する研究がある。また星名[2]は日本ラグビーの技術史を著わしている。しかし教育・指導用フィルム及びビデオ

に関して歴史的に扱った研究は見あたらず，そればかりか，教育・指導用フィルム及びビデオ自体に関する研究も見あたらない。このことから本研究が新しい分野の研究であるということにも，本研究の意義があると思われる。

Ⅲ．方　　法

1．フィルム及びビデオの収集

フィルム及びビデオの収集に当たっては，まずイングランドラグビー協会及びウェールズラグビー協会の出版物，英国のラグビー専門誌である‘RUGBY WORLD’，‘RUGBY POST’，‘RUGBY WORLD & POST’，日本ラグビー協会の機関誌「ラグビーフットボール」を調べることによって，イングランドにおけるラグビーの教育・指導用フィルム及びビデオの制作を年次的に確認した。次にこれらの中で現在購入可能なものはこれを求め，またすでに日本国内にあって借用可能なものは，当該機関より借用した。(表1)

2．フィルム及びビデオの検討

このようにして収集したフィルム及びビデオを，フィルムプロジェクター及びビデオカセットレコーダーで反復再生することによって，その内容を検討した。収集できなかったフィルム及びビデオについては，上記の文献をもとにその内容を判断し検討した。

Ⅳ．結　　果

1．制作状況

本研究によって明らかになったイングランドにおけるラグビーの教育・指導用フィルム及びビデオの制作状況を，ラグビーにおける歴史的事項とともに年次的に現わしたものが表2である。

2．各フィルム及びビデオの概要

ここでは表2に示した各フィルム及びビデオに関して

①制作年
②時間
③制作者
④内容の概略

の観点から検討し，各々の特徴を明らかにする。

(1)　Lions at Play

①1955年　②約25分
③南アフリカ政府
④このフィルムは，1955年のブリティッシュライオンズの南アフリカ遠征のハイライトシーンを納めたもの[11]で，制作は南アフリカ政府である。これをイングランドラグビー協会が十巻購入し，協会所属のクラブに指導の一助とするべく貸出を行なった[24]。このフィルムはイングランドでの制作ではなく，純粋な意味での指導・教育用フィルムでもないが，イングランドにおいて一般の指導者やプレイヤーが見ることのできた初のフィルムであることから，特にここに記す。(未見)

(2)　The Lions and The Kiwi

①1959年　②約60分
③詳細不明
④このフィルムも‘Lions at Play’と同様に，1959年にニュージーランド及びオーストラリアに遠征したブリティッシュライオンズの試合のハイライトシーンを納めたもので[11]，これをイングランドラグビー協会は指導・教育用フィルムとして貸出サービスを行った。制作者が明らかでないものの，イングランドラグビー協会（以後イングランド協会と略す）がイニシアチブをとって制作したものと思われ，イングランドにおけるラグビーのフィルム制作の先駆と考えられる。(未見)

表1　収集フィルム及びビデオ

16mmフィルム	ビデオ
Better Rugby Part1-4	
England's Year Film 1 &2	
France's Year	Even Better Rugby
Freedom to Run	Focus on Rugby No, 1-10
Mini Rugby It's the Real Thing	Rugby Neck Inuries
Play Rugby No. 1-10	Weekend Warriers
Rugby Filmlets No, 1-16	
Rugby Union Football	

表2　フィルム及びビデオの制作年表とトピック

1950	ブリティッシュライオンズ（英国代表）のニュージーランド遠征
1951	スプリングボックス（南アフリカ代表）20年ぶりの英国遠征
1953	オールブラックス（ニュージーランド代表）の英国遠征
1955	ブリティッシュライオンズの南アフリカ遠征 Lions at Play (F)
1959	ブリティッシュライオンズのニュージーランド遠征 The Lions and The Kiwi (F)
1964	ルールの大改正 南アフリカラグビー協会創立75周年 イングランド協会にサブコミッティーが作られる A New Look at Rugby (F) The Laws of Rugby Union (F) They Ran with The Ball (F)
1965	イングランド協会'A Guide for Coaches'を出版 Rugby Filmlets (F) Rugby Union Football (F) Rugby Union Football (F)
1967	Freedom to Run (F) Seeing Sport Rugby (F)
1971	イングランドラグビー協会創立100周年祭 William WEBB ELLIS-ARE YOU MAD？ (F) ウェールズ協会'Mini Rugby'を考案
1973	イングランド協会'Better Rugby'を出版 International Film Loops (F) Better Rugby (F)
1974	Mini Rugby Bardarian's Style (F)
1977	Play Rugby (F)
1979	Mini Rugby It's the Real Thing (F & V)
1980	Rugby Neck Injuries (F & V)
1981	France's Year (F & V) England's Year (F & V)
1982	イングランド協会のビデオ通信販売が始まる Even Better Rugby (F & V) Weekend Warriers (V)
1983	Focus on Rugby (V)
1986	インターナショナルボード創立100周年 Rugby Football Union Coaching Video (V)

注：Fはフィルム，Vはビデオを表わす

(3)　They Ran with The Ball

①1964年　②約35分

③イングランド協会

④1955年～1960年の間のいくつかの傑出したゲームのハイライトシーンを納めたフィルムであり[11]，過去のハイライトフィルムが記録的な要素が強かったのに対して，啓蒙とともに教育・指導を意図したフィルムである。(未見)

(4)　A New Look at Rugby

①1964年　②約20分

③Daily Mail

④イングランドの新聞社であるDaily Mailが制作したフィルムであり，その内容は，南アフリカのラグビー協会創立75周年の記念試合及び南アフリカに遠征したウエールズとスプリングボックスとのテストマッチのハイライトシーンを納めたものである[11]。当時の南アフリカは，3－4－1のスクラムフォーメーションを開発し世界最強を誇ったが，このフィルムはタイトルからも想像がつくように，南アフリカのラグビーを新しいラグビーとしてとらえ，そこから積極的に学ぼうとしたものと思われる。なおラグビー協会ではなく，民間の新聞社がこのようなフィルムを制作したことは特筆に値する。(未見)

(5)　The Laws of Rugby Football

①1964年　②約27分

③イングランド協会

④1960年代はたいへん頻繁に競技規則の改正がなされた。特に1964年には競技規則が全面的に書き換えられ，スクラム，ラインアウトのオフサイドラインが設定された。このフィルムはそのような状況下でイングランド協会が，競技規則への理解を促進し，混乱を避けることを意図して制作したものと思われる。(未見)

(6)　Rugby Filmlets

①1965年　②約50分

③イングランド協会

④16巻からなるこの無声フィルムは，1965年にイングランド協会から出版された指導書'Guide for Coaches'[10]の内容の理解を促進するために制作されたものである。過去のフィルムが指導・教育を意図したものであってもその内容が主に国際試合のハイライトシーンを扱ったものであったのに対して，このフィルムは指導書を補足するもので，フィルム独自で扱われるべき性格のものではないにしても，初めて技術，戦術を具体的に取り上げ，説明したものである。

(7)　Rugby Union Football

①1965年　②約50分

③The Film Producers Guild

④Part 1 For all players, Part 2 Mainly for Forwards, Part 3 Mainly for the Back という

3部構成によるこのフィルムは，イングランド初の本格的なラグビーの教育・指導用フィルムと言える。またインディビジュアルスキル，ユニットスキル，チームスキルという内容の構成，国際試合の場面を挿入しながらデモンストレーションにインターナショナルプレイヤーを使うという方法は，その後に制作される教育・指導用フィルム及びビデオの多くに活用されており，指導用フィルムの一つの典型を示すものであるとともに，その後のフィルム・ビデオの制作に大きな影響を与えたのではないかと想像される。

なおこのフィルムは，イングランド協会をはじめ，ウェールズ，スコットランド，アイルランドの英国の4つのラグビー協会の協力によって制作されている。

(8) Freedom to Run

①1967年　②約25分

③Daily Mail

④これは1964年の'A New Look at Rugby'の続編として位置づけられているフィルムであるが，'A New Look at Rugby'が国際試合のハイライトシーンによって構成されていたのに対し，これは国際試合の名場面を折込みながらも基本的には，ラフバラ大学の練習を通して，特にサポートの重要性を強調したフィルムである。このフィルムにはA版程の1枚の説明書が付されており，そこにこのフィルムが制作された経過及び制作上の基本理念が述べられている。それによると，1967年頃デフェンスが強調され，デフェンス力でゲームに勝つことが主体となって，その結果ボールを展開し，そのボールにサポートするといったプレーが損なわれてきたため，このフィルムではアタックのみに焦点を絞ってボールの展開とサポートの重要性を強調する，ということである。なおイングランド協会は，このフィルムを'Guide for Coaches'のテーマと一致するものとして公認している。

(9) Seeing Sport Rugby Part 1～Part 4

①1967年　②各22分

③不明

④'Seeing Sport'シリーズの1つとして制作されたこのフィルムは，Pre-Season Training, Passing, Kicking, Tacklingの4部から構成されている[7]。過去にトレーニングを扱ったフィルムには，1965年の'Rugby Filmlets'の中にサーキットトレーニングに関するフィルムがあるが，ここではシーズン前のトレーニングに限定して扱っており，注目を引く。(未見)

(10) Willam Webb Ellis—Are You Mad?

①1970年　②約25分

③イングランド協会

④このフィルムは，1971年に創立100周年祭をひかえたイングランド協会が，その記念事業の一環として制作したものである[14]。その内容は，ラグビー精神の強調ということを基本理念として，1823年のエリス少年のいわゆる「純情の破綻」[注2]をラグビー校で再現したり，国際試合の名場面を紹介したり，クラグライフを紹介したりというものである。なおこのフィルムは，ラグビーに関する初のカラーフィルムであるとともに，1971年のThe British Indusutorial and Scientific Films Associationの金賞に輝いている[25]。(未見)

(11) International Film Loops

①1973年　②不明

③イングランド協会

④これはラインアウトのバリエーション，ラインアウトからのバックス攻撃，スクラムからのバックス攻撃，ショートペナルティーとカウンターアタックについて，国際試合での名場面を集め，指導の参考にしようとしたものである[8][16]。(未見)

(12) Better Rugby Part 1～Part 4

①1973年　②各32，29，44，24分

③イングランド協会

④'Learn through activity with a ball in the hand'をメインテーマとして制作されたこの4巻のフィルムは，同年に出版された同タイトルの指導書[6]とお互いに補足的な役割を果たす，学校あるいはクラブレベルでの指導・教育用フィルムである[15]。このフィルムには段階的指導法，グリッドやチャンネルを使った指導法等，今までにラグビーでは実行されていなかったいろいろなアイデアが含まれている。またイングランド協会が1971年の創立100周年祭に向けて構築してきたラグビーの理論体系を，フィルムを通して明らかにしたものであり，その後ラグビーの4原則として現在まで広く活用されている，Go Forward(前進)，Continuity(継続)，Support(支援)，Pressure(圧力)という言葉がここで初めて使われている。またラグビーの技能を，ハンドリング，ランニング，

コンタクト，キッキングの4つに分類し，特にコンタクトを重視していること，教師あるいはコーチのために授業あるいは練習の展開方法の例を具体的に示していることにも特徴がある。

⑬ Mini Rugby Barbarians Style

①1974年　②約21分

③イングランド協会

④Mini Rugby は1971年にウェールズラグビー協会が，小学生以下の少年を対象としたラグビーのリードアップゲームとして考案した9人制のラグビーである。イングランド協会はこの簡易ゲームに目をつけ，その普及発展のために，1973年11月17日のトゥイッケナムでのイングランド対オーストラリアの前座試合として，デモンストレーションゲームを行なった。このフィルムは，このデモンストレーションゲームのハイライトシーンに，やはり1973年に行なわれたバーバリアンズ対オールブラックスのハイライトシーンを織り込みながら，Mini Rugby を解説している[17]。(未見)

⑭ Play Rugby №1～10

①1977年　②各約30分

③イングランド協会・ウエールズ協会

④10巻からなるこのフィルムは，本来 BBC のテレビプログラムとして，イングランド協会がウエールズ協会と共同で制作したものである。10巻と過去のいかなるフィルムより量的に富んでおり，ラグビーの基本的原則からチームプレーに至るまで総合的に扱われている。またこのフィルムはハンドリング，スクラム，チームプレーといった10のテーマについて，始めに基本的な考え方を示し，国際試合の場面を挿入しながら，イングランド協会の Don Rutherford,ウェールズ協会の Ray Williams の両コーチが，テーマにそって大学生をコーチするという過去にない形式を取っている[18]。

⑮ Mini Rugby It's the Real Thing

①1979年　②約33分

③イングランド協会

④1974年の'Mini Rugby Barbarians Style'が Mini Rugby の紹介的な要素が強かったのに対して，このフィルムは同タイトルの指導書とともに制作された純粋な教育・指導用フィルム（後にビデオも制作された）である。同タイトルの指導書[22]とともに補足的に活用されることを意図している点では，1973年の'Better Rugby'と同様である。小学校でのラグビーの基本技能を教える授業風景，コーチによる小学生へのユニットプレーの指導，そして少年たちのゲームを組み合わせた形式でフィルムは進行するが，過去のほとんどすべてのフィルムにあったような国際試合の場面の挿入はない。また，プレイヤーというよりも指導者を主な対象として制作されている。

⑯ Rugby Neck Injuries

①1980年　②約30分

③イングランド協会

④このフィルム（後にビデオも制作）は，タイトルからもわかるようにラグビーにおける頸椎損傷を扱ったものである[19]。ラグビーにおいて発生する外傷の中で頸椎損傷は，頻度こそ少ないものの発生すると重大事故につながる恐れがある。特に受傷直後の適切な取扱が重要であることから，このフィルムは受傷後の判断と受傷プレイヤーの運搬の仕方を詳細に説明している。

⑰ England's Year Film 1 & 2

①1981年　②各約16分

③イングランド協会

④1980年にイングランドは五カ国対抗でグランドスラムを達成するが，なぜイングランドが優勝できたのかを，Film 1 ではスクラムからのボールの活用，Film 2 ではラインアウトからのボールの活用というテーマから，イングランド協会の Don Rutherford と優勝チームのキャプテンであった Bill Beaumont が，試合の場面を振り返りながら討議している[20]。

⑱ France's Year

①1981年　②約20分

③イングランド協会

④伝統的にフランスはバックスにすばらしい人材を生み出しているが，その一人でありフランス代表の名フルバックであった Pierre Villepreux を，イングランド協会が招待して，イングランドの23才以下代表チームのバックスを対象にしてコーチングセッションを持った。その際の指導とイングランド協会の Don Rutherford とのやり取りを記録したのが，このフィルムである[20]。イングランドとフランスのバックスプレーにおけるいくつかの違いを明確に示しており，たいへん興味深いフィルムである。またフィルムとともに，その内容を説明した小冊子[21]も出版されている。

(19) Even Better Rugby

①1982年　②約32分

③イングランド協会

④1973年に出版された Better Rugby は1982年に Even Better Rugby[9]とタイトルを変えて改訂されたが，これとともに4巻のフィルムをコンパクトにまとめなおしたのがこのフィルム（後にビデオも制作）である。推奨される練習のプログラムを示し，その具体例を展開しながら子供たちのゲームのシーンを挿入している。1973年の Better Rugby とは異なり，国際試合のハイライトシーンは含まれていない。

(20) Weekend Warriers

①1982年　②約30分

③イングランド協会

④このビデオは，ラグビーの外傷を予防，受傷後の処置，リハビリテーションの3つの観点から総合的にとらえたものである。予防に関しては，プレイヤーのウォームアップや施設・用具の問題，受傷後の処置としては各クラブが備えるべき応急処置のための設備，具体的な応急処置のしかた，リハビリテーションでは試合までの復帰の過程の概略を，それぞれ述べている。

(21) Focus on Rugby Vol. 1～10

①1983年　②約30分

③ Opix Video

④ウェールズで放映されてテレビプログラムがビデオになってものである。このビデオは従来のフィルムやビデオがあまり扱っていなかったポジショナルスキルを，世界のトッププレイヤーが自分の意見とともに示範しているところに特徴がある。また各ポジションの過去の偉大なプレイヤーを紹介し，そのプレーをいくつか紹介している。第1巻にラグビーのフィットネスの問題を扱っていることにも特徴がある。また同タイトルの指導書[3]も出版され，お互いに補足的な役割をはたしている。

(22) Rugby Football Union Coaching Video Vol. 1～5

①1986年　②約30分

③イングランド協会・BBC

④イングランド協会と BBC が共同で制作したビデオであり，Focus on Rugby と同様にポジショナルスキルを扱っている[12]。Vol. 1～5 はバックスの各ポジションについて，英国のインターナショナルプレイヤーが示範を示している。1987年にフォワードの各ポジションを扱った Vol. 6～10が制作される予定である。

V．考　察

1．フィルムの制作開始からビデオ時代への変遷

1950年代の英国ラグビー界は，戦後の復興期と言えよう。1950年のブリティッシュライオンズのニュージーランド遠征，1951年のスプリングボックスの20年ぶりの英国遠征に始まり，ナショナルチーム交流が非常に盛んとなった。それにつれてラグビーの人気も高まり，1951年のスプリングボックスとイングランドのテストマッチでは7万1千人の大観衆がトゥイッケナムラグビー場に詰めかけている。財政的にもたいへん豊かになってきた[23]。このような背景をもとにラグビーの教育・指導用フィルムの作成が開始されたものと考えられる。

1964年にイングランド協会が1971年の協会設立100周年祭の準備のためにサブコミッティーを作り，積極的に出版活動を開始した。その一環として教育・指導用フィルムの制作に着手した。それに呼応するかのように民間レベルでもフィルムが制作されている。

1980年前後に同じものがフィルムとビデオの両方で制作されており，1983年以降にフィルムの制作はない。1980年前後を境にフィルム時代からビデオ時代へ移行してきているように思われる。

1959年の'The Lions and The Kiwi'以来1987年の'Rugby Football Union Coaching Video'まで，21題の教育・指導用フィルム及びビデオが制作されている。年代的にみると50年代に1題，60年代に7題，70年代に6題，80年代の7題のフィルム及びビデオが制作されており，必ずしも制作が盛んになっているとは思えない。

大部分のフィルム及びビデオがイングランド協会の制作であり，民間レベルで制作されたものも，イングランド協会が協力して制作したり公認したりしていることから，フィルム及びビデオの制作は基本的にはイングランド協会主導で遂行されているように思われる。

2．テーマの取り扱い方

当初のフィルムは，国際試合のハイライトを主に扱い，これを教育・指導用にあてたことから，

必ずしもそのフィルムのテーマや対象が明確ではなかった。しかし1964年の'The Laws of Rugby Football'以後，それぞれのフィルム及びビデオには，明確なテーマがうかがえられる。

テーマの取り扱い方を大別すると，'The Laws of Rugby Football'や'Freedom to Run'あるいは'William Webb Ellis-Are You Mad?'のような，一つの限定されたのテーマを扱ったものと，'Rugby Filmlets'や'Rugby Union Football'のような，総合的な教育・指導をテーマに扱ったものに分けられるであろう。

1973年の'Better Rugby'制作以降，ボリュームのある総合的な教育・指導用フィルム及びビデオが制作されている一方，1980年代に入るとある特定のテーマに焦点を絞ったフィルム及びビデオが制作されるとともに，そのテーマも多様化してきている。その中でも特に1980年に'Rugby Neck Injuries'，1982年に'Weekend Warriers'と，相次いでラグビーの外傷を扱ったフィルム及びビデオが制作されているのが目を引く。これは最近ラグビーにおける安全対策が強調されてきていることと無関係ではないであろう。

総合的な教育・指導用フィルムでは，従来インディビジュアルスキルを中心に，ユニットスキル，チームスキルを扱うのが主流であったのに対して，最近では'Focus on Rugby'や'Rugby Football Union Coaching Video'のようにポジショナルスキルがより強調される傾向にあるように思われる。

3．内容の構成

内容の構成から教育・指導用フィルム及びビデオを分類すると，国際試合のハイライトシーンを扱ったもの，プレイヤーの活動（練習）を通して技術や指導方法を示したもの，名プレイヤーが示範を示すもの，その他，に分けられるだろう。

古典的なものとしては，'They Ran with The ball'のような国際試合の名場面あるいは名選手の名プレイを示して，教育・指導の一助としようとするものが上げられるが，最近ではテーマの多様性とあいまって，この傾向は薄れているように思われる。

プレイヤーの活動（練習）を通して技術や指導方法を示すものには，'Rugby Union Football'のようにプレイヤーの活動（練習）を示して，それを解説で説明するものと，'Better Rugby'のようにプレイヤーを実際に指導するコーチの活動を通して理解をはかろうとするものとに大別されるが，最近は後者の傾向が強いように思われる。

名プレイヤーが示範を示すという方法は古くから活用されているが，最近のポジショナルスキルを扱ったビデオにおいて特に顕著である。

これらのいずれにも属さないその他としては，ラグビーの外傷という教育・指導用フィルム及びビデオとしては特殊なテーマを扱った'Rugby Neck Injuries'，'Weekend Warriers'に見られる。

フィルムあるいはビデオと同タイトルの，あるいはそれに関連した指導書を出版して，お互いに補足的な役割を果たしているものが6題あり1つの特徴と考えられる。

VI．まとめ

サンプル数も多くなく，しかも未見のフィルム・ビデオもあるため，現在のところ明確な結論を出すには至らないが，本研究によって得られた知見は以下の通りである。

1．イングランドにおける教育・指導用フィルム及びビデオの歴史は1955年に始まる。

2．イングランドでは1955年以後現在まで，21題の教育・指導用フィルム及びビデオが制作されている。

3．1980年前後を境にフィルム時代とビデオ時代に分けられる。

4．イングランド協会が制作のイニシアチブを取っている。

5．内容の構成は多様であり，最近その多様性がテーマの多様化とともに増している。

注1）本研究の予備調査として世界のラグビー主要国20カ国に，教育・指導用フィルム及びビデオの有無を確認したところ，8カ国に存在が確認された。

注2）1823年イングランドのラグビー校で，フットボールの試合中興奮の余りルールで禁止されていたボールを持って走るという行為を行い，それがきっかけとなってラグビーフットボールが生まれたと言われる。これを称して「純情の破綻」と言う。

引用・参考文献

1）Gadney, C.H., "The History of the Laws of Rugby Football 1949—1972", Walker & Co.,

London： 1973.
2）星名　奏，「ラグビーの技術史」岸野雄三，多和健雄（編），スポーツの技術史，大修館書店，1967，pp 517～550.
3）James, C., "Focus on Rugby", Stanley Paul, London： 1983.
4）中村　樗，「ラグビー競技場の変遷」，日本体育学会第34回大会号，1983，p. 121.
5）Royds, P., "The History of the Laws of Rugby Football", Walker & Co., London：1949.
6）Rugby Football Union, "Better Rugby", Rugby Football Union, London：1973.
7）Rugby Football Union, "Coaching Scheme 1981/82", Rugby Football Union, London： 1981，p. 45.
8）Rugby Football Union, "Coaching Scheme 1981/82", Rugby Football Union London： 1981，p. 46.
9）Rugby Football Union, "Even Better Rugby", Rugby Football Union, London：1983.
10）Rugby Football Union, "Guide for Coaches", Rugby Football Union, London：1965.
11）Rugby Football Union, "Guide for Coaches Pamphlet x", Rugby Fottball Union, London： 1966，p. 11.
12）Rugby Football Union, News From H.Q., Rugby World and Post： London, May：8，1986.
13）Rugby Football Union. Rugby Football Union Page, Rugby World： London, May：4，1970.
14）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World： London, May：4，1972.
15）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World: London, January：5，1973.
16）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World: London, April：5，1973.
17）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World: London, April：5，1974.
18）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World: London, March：7，1977.
19）Rugby Football Union, Rugby Football Union Page, Rugby World: London, December：8，1980.
20）Rugby Football Union, Rugby Roundabout, Rugby Post: London, October：5，1981.
21）Rugby Football Union, "Visit by Pierre Villepreux", Rugby Football Union： London, 1982.
22）Rutherford, D., "Mini Rugby It's a Real Thing", Rugby Football Union: London, 1979.
23）Titley, U.A. & McWhirter, R., "Centenary History of the Rugby Football Union", Rugby Football Union: London, 1970，p. 160.
24）Titley, U.A. & McWhirter, R., "Centenary History of the Rugby Football Union", Rugby Football Union: London, 1970，p. 62.
25）Titley, U.A. & Mcwhirter, R., "Centenary History of the Rugby Football Union", Rugby Football Union: London, 1970,p.183.

最後に，本研究は筑波大学学内プロジェクト研究からの援助を受けたことを記す。